



議案外質問(6月25日) 西山あさみ議員

## 若い世代の雇用と暮らしの応援を 応援することはつとめ。ブラック相談も出かけるべき (市長)

西山あさみ議員は、6月議会本会議で、若い世代の雇用と暮らしを応援する施策のうち、特に奨学金返還支援制度の創設やブラックバイト・ブラック企業への対応について市の姿勢をたずねました。

### 奨学金返還支援制度の早期の創設を

いま学生の2人に1人が奨学金を借り、1人当たりの貸与額は平均295万円、大学院に進学すれば1000万円にもなり、10人に7人が有利子です。卒業後に迫られる多額の返還と利子は若者には大変な負担となっています。西山議員自身も約210万円の奨学金を返すため、

毎月約1万5千円をあと12年間、37歳まで支払い続けなければならなりません。西山議員は市長に「市として奨学金返還支援制度の創設を」と求めました。

### 応援することはつとめ (市長)

市長は「戦後の苦しみを経て、世界一ともいえる産業地域となったこの地域からすれば、応援することはつとめではないか。調査してやろまいと検討を市民経済局長に指示した」と答えました。

西山議員は、「地元産業界とも協力し、ぜひ早期に奨学金返還支援制度の創設を」と強く求めました。

## ブラックバイト・ブラック企業から若者を守れ 実態をきちんと把握し、繁華街に出かけて相談活動を

### 「ブラックバイト」から身を守る取り組みを

西山議員は学生アルバイトについて、自分の経験や、街頭で対話した若者たちの声を紹介し、「アルバイトには有給休暇などないと思っていた」「アルバイトを休む時には自分で代わりを探すのはどこのバイト先でも当たり前だと思っていた」「着替える時間は業務時間ではないといわれた」など、具体的な働くルールの知識がないことや、「仕事を辞めたいと思ったら20万円の違約金を払えと言われ、サラ金からお金を借りて払った」という事例などを示し、名古屋市に具体的な対応を求め、質問しました。

### すべての高校生に働くルールやパンフレットを

西山議員は、市立高校のアルバイトの実態や「働くルール」の実践的な勉強の機会の確保、相談窓口の紹介を含めた啓発パンフレットの活用状況をたずね、教育長は「アルバイトの届出は、全日制で370人(3%)、定時制が348人(37%)、合計718人(6%)」「働くルールの出前講座を昼間定時制の全生徒と全日制の2校で実施予定」「パンフレットは全校で413部配布」と答えました。西山議員は、すべての市立高校で「働くルール」の出前講座の実施し、すべての生徒にパンフレッ

トを配布するよう求めました。

### 「ブラック企業」の相談窓口の設置を

若者を劣悪な環境で働かせ、使い潰し、使い捨てる、ブラック企業が大きな社会問題となっています。西山議員は「朝から深夜まで働くのは当たりの生活」「有給休暇は本来会社が休みであるお盆やお正月休みに勝手に消化され、有給休暇をとることができない」という友人の話を紹介し、「名古屋市としてブラック企業から若者を守るため、相談しやすい窓口をつくれ」と求めました。

局長は「市役所西庁舎の市民相談室の活用を」と答えるだけで、「役所内とは別に繁華街などで相談を」という要求には「プライバシーに関わる」と答弁を避けました。

### 外に出かけて活動せないかん (市長)

西山議員が「行政が進んで若者の中に入っていきべきだ」とさらに追及すると、市長は「賛成です。外に出かけて活動せないかん」と答えました。西山議員は「本気で若者をサポートする気持ちがあるのであれば、まず始めよ」と厳しく指摘しました。

